

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024 年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿〒 101-0041
所在地 東京都千代田区神田須田町1丁目9番
神田須田町プレイス203号

評価機関名 株式会社 福祉規格総合研究所

認証評価機関番号

機構 03 - 109

電話番号 03-3258-0348

代表者氏名 代表取締役 林 俊哉

以下のとおり評価を行いましたので報告します。



評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	明石美絵	経営	H1801026
	②	杉浦慎也	福祉	H0702029
	③	阿部久美子	福祉	H1401034
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	さかえ保育園			
事業所連絡先	〒	125-0032		
	所在地	東京都葛飾区水元3-11-8		
	TEL	03-3608-4597		
事業所代表者氏名	園長 森 由紀			
契約日	2023 年 5 月 26 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023 年 10 月 12 日			
利用者調査結果報告日	2023 年 11 月 20 日			
自己評価の調査票配付日	2023 年 10 月 12 日			
自己評価結果報告日	2023 年 11 月 20 日			
訪問調査日	2023 年 11 月 27 日			
評価合議日	2023 年 11 月 27 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	令和2年度に続いての第三者評価への取り組みである。引き続き当社が担当した。ただし、多様な視点から評価を行うため、評価者の一部を替えている。利用者調査はアンケート方式で実施し、調査票提出による回答とweb入力による回答のいずれかを選択してもらった。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024 年 2 月 1 日

事業者代表者氏名 園長 森 由紀



調査対象

調査日時点の利用者の全世帯を対象とした。利用者総数は41名、世帯数は30世帯であった。

調査方法

アンケート方式により実施した。調査票提出による回答の場合は、事業所より調査票と返信用封筒を配付してもらい、記入後は評価機関宛に直接郵送してもらった。Web回答の場合は回答期限までに入力して送信してもらった。

利用者総数
利用者家族総数(世帯)
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

41

30

30

23

76.7

利用者調査全体のコメント

23名の回答があり、回答者割合は7割強であった。
総合的な園の感想として「大変満足」、「満足」がともに11名と、ほぼ全ての回答者が満足としている。
自由意見では、「温かい対応」、「柔軟な対応」、「子どもたちが楽しめる行事やイベントがたくさんあること」、「色々な経験・体験をさせてくれること」等に、感謝を述べるコメントが見られた。また、「持ち物の取り違えをなくしてほしい」という要望も出ていた。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	22	1	0	0
ほぼ全ての回答者が「はい」としている。「園での様子を聞く中で成長を感じている」、「身の回りのことなど驚くほど日々成長を感じる」、「先生・友だちとの関わり、製作・散歩などよい刺激を受けている」等のコメントがあった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	22	1	0	0
ほぼ全ての回答者が「はい」としている。「毎日楽しみに通っている」等のコメントがあった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	20	2	0	1
8割以上の回答者が「はい」としている。具体的なコメントはなかった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	21	1	1	0
9割以上の回答者が「はい」としている。「過ごしやすい気候になると、ほぼ毎日の散歩で自然と関わる機会がある」、「遠足・運動会・ポニー教室・体操教室・キャンプ等があり、親子で楽しみにしている」等のコメントがあった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	17	2	0	4
7割以上の回答者が「はい」としている。「遅延の連絡をすると『気をつけていらしてください』と言われ、気持ちを落ち着かせることができる」等、感謝を述べるコメントが見られた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	20	3	0	0
8割以上の回答者が「はい」としている。「頻繁に風邪をひいてしまう」等のコメントがあった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	21	2	0	0
9割以上の回答者が「はい」としている。具体的なコメントはなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	21	2	0	0
9割以上の回答者が「はい」としている。「送迎時に気になること・できるようになったこと等を共有してくれる」、「些細な質問にも親身になって答えてくれる」等、信頼感を示すコメントが見られた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	20	3	0	0
8割以上の回答者が「はい」としている。具体的なコメントはなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	22	1	0	0
ほぼ全ての回答者が「はい」としている。具体的なコメントはなかった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	21	0	0	2
9割以上の回答者が「はい」としている。具体的なコメントはなかった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	15	5	0	3
6割以上の回答者が「はい」としている。「トラブルになっていないのでわからない」等のコメントがあった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	22	1	0	0
ほぼ全ての回答者が「はい」としている。「子どもの気持ちを尊重してくれている」等のコメントがあった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	20	2	0	1
8割以上の回答者が「はい」としている。具体的なコメントはなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	23	0	0	0
全ての回答者が「はい」としている。「連絡帳・SNSで活動を報告してくれる」、「お迎え時に園での様子を伝えてくれる」等のコメントがあった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	18	4	0	1
7割以上の回答者が「はい」としている。「要望」にはできる限りの対応をしてくれる」というコメントがあった。また、「職員間で情報共有されていないと思う時がある」という意見も出ていた。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	21	2	0	0
9割以上の回答者が「はい」としている。具体的なコメントはなかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
1	カテゴリー1	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	法人のホームページをリニューアルして、保育方針等をわかりやすく伝えている 園の理念である「強い子に育てる」を基に、「自立心を養い、隣にいる子に手を差し伸べることで育てる子どもを育てる」ことを保育目標に掲げている。職員に対しては、全体的な計画に記載し、職員会議や朝礼、終礼時に都度説明している。園の玄関や職員室等に掲示して、日々の保育にも反映させている。保護者に対しては、保育方針、保育目標を記載した「園のしおり」を配布し、入園面談時に丁寧に説明している。その後は年度初めの保護者会において再度説明している。ホームページでは、動画による園紹介とともに保育方針をわかりやすく伝えている。 園長は自らの責任において園のビジョンを職員に伝え、取り組むべき方向性を示している 保育理念、保育方針、保育目標を意識し、責任感を強く持って保育に従事することを、園長自らの責任において説明している。また法人職員としてあるべき姿、保育者としてあるべき姿、園のビジョンを職員に対して発信し、取り組むべき方向性を示している。組織としては、園長の下に統括主任、副主任2名を置いている。現場リーダーとなる副主任は、職員間での報告、連絡、相談を徹底することと創意工夫を持ち、自主的に業務に取り組めるよう指導している。職員の自己評価からは、意見が出しやすく、相談がしやすい環境にあることがうかがえた。 決定事項については、内容と決定に至るまでの経緯も含めて周知するように努めている 重要な案件は、理事長の権限の範囲で決定を行い、権限を越える案件は理事会で検討し決定する。園内の課題は、園長と主任による管理者会議を毎月開催して検討している。また、職員全体会議を毎月、乳児部会、幼児部会をそれぞれ月2回開催している。重要な案件の決定事項は、職員会議等を通じて園長より詳細に伝えている。決定事項は、保護者に対しては全体保護者会、各クラス保護者会、文書によって、内容と決定に至るまでの経緯も含めて周知している。また内容に応じては、その都度SNSを通じても保護者に伝えられる仕組みとしている。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
保護者の意向把握に努め、課題を検討して次の企画に活かせるようにしている 保護者の意向把握に努め、行事の感想や意見等は会話や連絡帳等から把握し、翌年の企画に活かしている。保護者会の日程調整、保育参加、個人面談の日時等は、保護者のニーズに合わせて日程調整している。保護者のニーズの把握として、今回の利用者調査の内容を分析し、保育に反映していく意向である。各行事の取り組みに対する考えや進行等は、乳・幼児部会、職員会議で発信し、管理職を含めた全職員で検討することとしている。現場の職員の意見を尊重するようにしている。地域の福祉ニーズは、区内の園長会議等から把握している。 収集した地域等の情報は、園長から会議等を通じて全職員と共有している 福祉事業全体の情報は、園が所属する保育協会等の会議や関係機関の研修等への参加を通して把握している。事業所の経営状況は、理事会、管理職会議で把握し、長期的な事業の展開を含めて検討を行っている。地域のニーズを十分に把握したうえで、さらなる事業拡大について中長期の計画を作成している。収集した情報は、園長から会議等を通じて全職員と共有し、保育ニーズや保育情勢など園が置かれた状況に意識を向けている。また職員確保が難しい社会情勢や地域需要に対応して、区との協議を重ねて昨年度から68人から50人に定員変更した。 計画の策定にあたっては理念や方針を職員が十分に把握し、各年齢に応じて作成する 中長期計画を踏まえて、単年度の事業計画を策定している。次年度に向けて、各部門からの計画を統合してまとめていく。事業計画と連動して予算を策定している。期中の進捗状況は、管理者会議で検討する。保育計画の策定にあたっては、保育理念や保育方針、保育目標を全職員が十分に把握し、全体的な計画を踏まえて、各年齢に応じて作成する。年間計画は、学期、月ごとに会議を持ち、子どもや保護者の状況、社会情勢等も十分に考慮したうえで、職員による討議を経て、計画の見直しや変更を行いながら取り組みを進めている。		

カテゴリー3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

虐待対応マニュアルを参考にして、職員会議等で意見交換を行っている

社会人、福祉従事者として職員が守るべき規範や倫理は、就業規則にサービスの章を設けて明示している。朝礼、終礼、職員会議の中で、園長から保育のあり方を説明したり、報道される事件等を取り上げて、保育を振り返る機会を設けている。全体的な計画の中に、社会的責任、人権尊重、個人情報保護、苦情解決等の項目を設け、職員会議等で確認をしている。児童虐待対応マニュアルを策定し、これを参考に職員会議、乳幼児部会等で職員間で意見交換を行いながら、日々の保育を見直している。

苦情解決の取り組みについて、園のしおりで説明し、園内に掲示して周知に努めている

苦情解決の仕組みを構築し、園のしおりに記載している。苦情解決の第三者委員として地元の民生委員と大学関係者の2名に委嘱し、氏名と電話番号を公開している。園内の見やすい場所にもわかりやすく説明した文書を掲示している。保護者から意見・要望・苦情があった際は、全職員で内容を共有し、園長を中心に速やかな対応を行うこととしている。受付けた苦情の有無にかかわらず、毎月の結果を園入口に掲示して保護者に周知している。日頃から保護者とのコミュニケーションを深め、苦情になる前の段階で相談してもらえるように努めている。

地域のニーズに対応して学童保育、訪問型病後児保育、緊急一時保育等を実施している

事業の透明性を確保するために、法人のホームページにおいて、事業報告、財務情報、第三者評価の結果等を開示している。各園のサイトでは、毎月の園だより、行事の取り組み等を紹介し、日々の保育の様子は、SNSを活用して保護者が見ることができるようにしている。区の私立保育園連盟が主催する入園相談会に参加し、入園を希望する保護者に詳細に説明している。地域の子育て家庭に対して、区内に3箇所の学童保育、訪問型病後児保育、緊急一時保育等を行っている。幼保小連絡協議会に出席し、小学校との連携を深め意見交換等を行っている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
様々なリスクに対応するマニュアルを整備し、職員は園内研修で内容を把握する 様々なリスクに対するマニュアルを作成し、全職員が内容を把握するための園内研修を実施する。マニュアルでは、順序だてて対処できるようフローチャートで示している。区のハザードマップを参考に、水害時には園舎の上階に避難をする。常時、職員一人ひとりに無線機を持たせており、職員間で迅速な情報伝達を図ることができる。園のすぐ近くに消防署があるため、緊急時もすぐに対応が可能である。災害等に対応したBCP(事業継続計画)を策定している。年度内の作成研修会に統括主任が参加し、現行のものを精査して実行性を高める意向である。 子どもの安全を守るために散歩コースを見直し、園内に掲示して注意喚起している 今年度から運用を開始した安全計画に基づき、安全点検、研修、訓練を実施している。事故報告やヒヤリハット事例を収集し、事故の再発・予防策を検討して職員間で周知している。報道される事故を参考に、散歩コースを見直しお散歩マップを作成した。狭い道路、信号のない横断歩道、時間の短い横断歩道を地図上にマークして注意喚起している。加えて利用する公園や遊具を写真付きで紹介し、園内に掲示している。セキュリティ対策として、防犯カメラを複数台設置して、録画を行っている。AEDの使用法や年2回の不審者訓練にも取り組んでいる。 収集した情報を適切に保管し、活用できるように、繰り返し情報発信している 個人情報を含む様々な情報を流用しないこと、適切に保管・利用することを、常に園長・主任が発信している。職員は入職時に守秘義務についての誓約書を提出している。保管している情報は、分野別にファイリングし、適宜更新を行っている。重要性・機密性の高い書類は、鍵付きのキャビネットで保管し、園長・主任の許可を得て、必要な際に閲覧できるようにしている。法人内でグループウェアを導入し、円滑な情報共有の基盤整備に取り組んでいる。パソコンからネットワークにアクセスするにあたっては、パスワードを付与してアクセス制限を設けている。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1 (5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ-2 (5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

求職者に対しては、園の方針や保育の様子を伝えられるように園見学を勧めている

職員の募集にあたり、法人のホームページに採用専用サイトを設けて、直接エントリーすることができる。就職フェアへの参加や専門学校・大学にも訪問し、保育理念、保育方針、職場環境、法人の将来展望等を発信している。応募者には面接を行い、人物重視で採用を決定している。また園見学を勧めて、必要であれば他園とも比べてもらい、その上で採用を進めている。見学によって職員間の関係性の良さ共感し、応募につながる傾向もある。職員が意欲を持って取り組めるよう、翌年度の配置体制は担当クラスの希望を把握して管理職が総合的に判断する。

職員一人ひとりのスキルや経験を十分に把握し、育成計画に反映している

人事考課制度を導入し、その結果を賞与に反映している。法人の階層・職種別の考課表により、さまざまな視点から評価項目が設定されている。考課表に取り組むことにより求められる人材像が明らかにされることで、職員一人ひとりの将来展望が描きやすくなっている。園長は年に2回程度、職員との面談を行う。職員のスキルや経験を十分に把握し、スキルアップできるように育成計画に反映している。キャリアパス制度については、資料を回覧し、全職員に周知している。研修参加後には報告書を作成し、会議での発表や閲覧することで成果を共有している。

各部門の連携によりチームでの取り組みを共有化して、保育の質を向上させている

乳児、幼児、保健の各部門が連携して、チームで話し合いをすることで、だれもが意見を伝えやすい環境を整えている。チームでの検討課題は職員会議で討議し、園全体で共有化することで保育の質の向上につなげている。職員一人ひとりのニーズに合わせた働きやすい職場作りに取り組んでいる。IOT化による職員の業務負担の軽減、時短での勤務、シフトの交替、全職員に連続5日のリフレッシュ休暇を付与している。また休憩時間を確保できるよう、園長が積極的に声をかけている。法人職員合同で交流の機会を持ち、今年度は運動会に参加した。

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) 保育方針にある「隣にいる子に手を差し伸べることのできる子どもを育てる」を保育の基盤として、指導計画を立てている。その実践に向けた内容について取り組んだ。年間を通じて縦割り保育を取り入れて、年長児が年少児に自然と手を差し伸べることができる関わりを多く持たせた。行事については、コロナ禍では関わりが制限され規模を縮小して実施したが、昨年度は感染症対策を講じて実施できるように、保育のねらいを見直し、再開した。保護者が参加する行事については、事前に説明して了承を得て、人数制限を設けて実施した。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 合同保育の実施にあたっては、全職員で日案、週案を立てるときに話し合い、縦割り保育の内容を検討している。さらに園児同士の関わりを多く持てるように、合同保育の割合を増やした。合同保育や行事の実施の際は、消毒による環境整備を行い、園児だけでなく保護者の体調を把握している。実施後の保育内容は、日誌、週案、月案に記録して、月末や学期ごとに自己評価を行い、今後の保育に反映していくことできている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

事故防止と事故発生時の処置を心得ておき、事故発生時は迅速に対応できるように取り組んでいる。園は消防署のすぐそばにあるため、これまでは消防署の協力を得て訓練を行ってきたが、コロナ禍では実施出来なかった、そのため、看護師が区主催の講習に参加して、救急救命、アレルギー対応、誤飲対処法等の必要な知識と技術について、資料に基づき研修した。今年度は、消防署での実施が再開された。園にAEDの設置はないため消防署から借りることも想定し、AEDの使用法の訓練を行った。だれもができるように3回に分けて訓練することができた。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

看護師の採用がなされたため、職員全員が同様に対処できるように、保健衛生をはじめとする園内研修を行っている。また今年度から運用を開始した安全計画を踏まえて、危機管理など各種マニュアルの見直しを行うことができた。BCP(事業継続計画)については作成がなされているが、実際の運用に向けて内容を見直す意向にある。そのため、統括主任が東京都社会福祉協議会のBCP作成についての講習を年度内受講して、計画の更新を行う予定にある。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		○非該当
サブカテゴリー1の講評			
ホームページ等で、園の情報を広く提供できるようにしている 昨年リニューアルしたホームページ等で、園の情報を提供している。ホームページには、園の概要やおたより・献立、年間行事、採用情報等を掲載している。写真やイラストを使用することで、わかりやすい表記となるように留意している。入園した保護者に向けては、園のしおりを用意している。保育目標、保育時間、クラス構成、職員構成、活動内容等をわかりやすく明記している。 区や関係機関等に園の情報を提供して、連携を図っている 行政や関係する機関へは、在園児の状況や運営上の基本的な情報について報告している。日頃より情報の交換を行い、園を運営するうえで連携を取ることができるよう努めている。区のホームページに園の基本情報を載せて情報を公開している。また、区の私立保育園連盟が作成している保育園ガイドブックにも園の情報を載せている。様々な媒体を活用して保育事業への理解や情報提供に努めている。 見学や問い合わせには随時対応し、丁寧な説明を心がけている 問い合わせや見学には、随時対応している。見学は副主任・主任・園長が担当している。園内を見学してもらい、園生活のファイルを活用して説明をしている。園からは理念・方針や保育内容のほかに、慣れ保育を実施していること、延長保育がないこと等を伝え、納得したうえで選んでもらえるようにしている。見学では、疑問点が残らないように丁寧に対応するよう心がけ、質問にも答えている。			

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
入園決定後に個別面談を実施し、基本的なルールや重要事項等を説明し承諾を得ている 入園決定後に、必要な書類を取りに来てもらい、その後面談を実施している。個別に面談を実施することで、一人ひとりの子どもの様子や各家庭の状況を確認して把握している。園のしおりを用いて、園生活での基本的なルールや重要事項等の説明を行っている。保護者からの質問にも返答を行い、その後承諾書を提出してもらうことで、保護者の同意を得るようにしている。 入園直後は慣れ保育を実施して、子どもの不安やストレスの軽減に努めている 面談では、家庭での子どもの様子・状態・保護者の意向等、子どもの支援に必要な情報を聞き取り、記録している。聞き取った内容については、職員間で周知しその後の支援に活かすようにしている。入園直後は「慣れ保育」として保育時間を少しずつ延ばし、徐々に保育園での生活に馴染むことができるようにしている。実施期間は1週間から10日を目安としており、保護者に説明をしたうえで、協力をお願いしている。 サービスの終了後にも希望があれば相談に応じる等、支援の継続性に配慮している 転園等の理由により退園する場合には、状況に応じて保護者からの相談に応じられるようにしている。退園後に来園されたり、連絡があった際には近況を確認し、不安や相談ごとがあれば応じられるようにしている。転園・退園をきっかけに支援が途切れてしまわないように配慮している。卒園後に同法人が運営する学童保育に入所する児童も多いことから、園行事に学童保育の参加を呼びかけて交流を図っている。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリ3の講評		
連絡帳や保育日誌、児童票等に子どもの成長の様子を記録し把握している 毎日の子どもの様子は、保育日誌や連絡帳に記録している。保育日誌には、当日の出来事や気になること等を記録している。0・1・2歳児は個別に記録している。連絡帳は0・1・2歳児が使用している。0歳児は複写式のもので、一部を個人記録として保管している。児童票に、0歳児は毎月、1・2歳児は2ヶ月ごと、3歳児からは3ヶ月ごとにまとめて記録することで、子どもの成長の過程を把握できるようにしている。		
各種記録や計画類はICT化により、パソコンで入力・管理している 記録や計画類についてはICT化を進めており、パソコンで入力・管理している。児童票や連絡帳は手書きとしている。指導計画は、全体的な計画を基に、年間・月案・週案等を作成している。0・1・2歳児は毎月、個人別の指導計画を作成して保育にあたっている。計画の作成にあたっては、日々の送迎時のやり取りや連絡帳、個人面談、保護者会等で、保護者の意見や要望等を把握し、反映させている。		
各種会議、朝礼、ノートや早番・遅番連絡表、無線機等を活用して情報を共有している 乳児部会、幼児部会、職員全体会議等を実施している。また、朝礼(ミーティング)を実施することで、職員間で情報を共有している。保護者への伝達事項等は、ノートや早番・遅番連絡表等に記録して共有している。また、職員全員が無線機を携帯しており、常に情報を共有できるように工夫している。		

サブカテゴリー5	
5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている ○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている ○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している ○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている ○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている ○非該当
サブカテゴリー5の講評	
個人情報の取り扱いについては、保護者に説明を行い同意を得ている 個人情報の取り扱いに関しては、年度初めの保護者会で説明している。必要があればその都度、事前に保護者に使用の許可を求めている。保護者や子どものプライバシーが記載されている書類は、鍵付きのキャビネットで保管して、情報の管理を厳格にしている。 子どもの年齢や発達に合わせ、羞恥心に配慮した対応を心がけている 子どもの羞恥心に配慮した支援を心がけている。子どもの名前は呼び捨てにせず、くん、ちゃん付けで呼ぶこととしている。排泄を失敗した場合には周りに気づかれないよう配慮している。夏場のプールの際は外部から見えないように、目隠しを施している。また、おむつ替えの際には衝立を使用している。着替えの際には男女別にしている。幼児クラスのトイレには扉を付けることで、他児から見えないように配慮している。 虐待の情報を得た場合には、関係機関と連携できるように体制を整えている 子どもと保護者の価値観や生活習慣を把握し、可能な限り尊重している。虐待の情報を得た場合や虐待の事実を把握した場合には、園長に報告を行い、関係機関へ連絡をする体制を整えている。また、育児困難家庭への支援や虐待の早期発見等に関する研修があれば参加し、理解を深める努力をしている。	

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリー6の講評			
保育に必要と思われるものについて各種マニュアルを作成し、手順を明確にしている 一日の流れや保護者対応等について示した「保育のガイドライン」を整備している。また、危機管理や衛生管理等、支援に必要と思われるものについて各種マニュアルを作成し、手順を明確にしている。マニュアルは事務所に置いたり、園内に掲示する等して、職員が必要時に確認できるようにしている。マニュアルは年度ごとに見直しを実施し、必要があれば変更や追加をしている。 基本事項や手順等は年度末に見直し、次年度の計画に反映させている サービスの基本事項や手順等は、会議で検討したうえで周知・確認している。基本事項や手順については年度末に見直しを行い、変更や修正がないか確認している。日々の送迎時のやり取りや連絡帳、個人面談、保護者会等で寄せられた保護者からの意見・要望は、職員間で検討し、次年度の計画に反映している。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
		36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		
評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当
評価項目1の講評		
連絡帳・保育日誌・児童票等に子どもの様子を記録し、全体的な姿を把握している 子ども一人ひとりの発達の経過は定期的に児童票にまとめるとともに、日々の様子は連絡帳・日誌に記録して子どもの全体的な姿を把握している。家庭での様子・生活環境等は連絡帳の記録とあわせて、登降園時や個人面談等で保護者に確認している。園全体で子どもの姿を把握できるよう、各部会や会議において個々の子どもの情報を職員間で共有している。子ども同士が関わりを持ったり、一人ひとりの子どもが興味・関心を深めて落ち着いて遊べるように、年齢・発達に合わせた玩具・絵本を用意して遊びのコーナーを設置している。 異年齢で過ごす機会を多く持ち、いたわりや優しい心を育てている 「隣にいる子に手を差し伸べることをできる子どもを育てる」を保育方針として、異年齢で過ごす機会を多く持ち、いたわりや優しい心を育てている。文化・生活習慣の違いや言語への配慮が必要な場合は、配付物をひらがなで作成するなど配慮している。障がい等で特別な配慮が必要な場合は、保護者や専門機関と連携を図り、個別の指導計画を作成して保育を行う。専門機関の職員が来園する際は、子どもの様子を見てもらい、保育上のアドバイスをもらっている。 1月より就学に向けた活動を取り入れ、情報の引き継ぎ等で小学校と連携を図っている けんか・かみつ等のトラブルは、双方の気持ちを受け止めて職員は代弁や見守りをしている。幼児は納得できるまで話し合うなど自分で解決する力を養っている。トラブルは互いの気持ちに気づく大事な場面として捉え、園での対応についておたより等で保護者に伝えるとともに、トラブルがあった時には出来事として保護者に説明している。年長児は1月より午睡をなくし就学に向けて生活リズムを整えている。いすに座って過ごすことを目的に文字・数字に親しみ、素話を聞いて集中力や想像力を養っている。就学先には保育要録を提出して引き継ぎしている。		

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排泄・睡眠などの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

評価項目2の講評

登降園時の伝達や連絡帳等で子どもの様子を保護者と共有するよう努めている

0・1・2歳児は連絡帳を使い、食事・排泄・睡眠や健康状態等を家庭と園で引き継ぎしている。0歳児の連絡帳は時系列で生活リズムを把握することができ、複写式の一部を個人記録として園で保管する。登園時は視診・口頭でも子どもの様子を確認し、各クラスの「受入票」に記録して担当職員に伝達している。特に夏休み明け等は家庭での過ごし方を確認して生活リズムの把握に努めている。看護師は毎朝保育室を巡回し、個々の健康状態を観察している。各クラスの様子はSNSを通じて毎日保護者に配信している。

生活習慣が無理なく身につくように保護者と連携して援助している

生活習慣は子どもの気持ち・興味・関心に応じて開始のタイミングを個々に判断している。無理なく身につくように遊びの中に取り入れながら、手洗い・うがい・歯磨き・箸の使用等に取り組んでいる。排泄の援助は保護者の意向を確認しながら個別に進めている。異年齢で過ごす機会が多く、年齢の違う子どもの影響を受けながら自然と身につくこともある。保護者には保護者会、保育参加(幼児)、おたより等でねらいや園の取り組みの様子を伝えている。

集団生活での心の緊張や体を休めるために休息できる環境を整えている

午睡は、集団生活での心の緊張や体を休めるために、時間を決めて静かに過ごす時間としている。寝具は安全・衛生に配慮して通気性のよいベッド(3・4・5歳児)やマット(0・1・2歳児)を使用している。ベッド・マットのカバーは園で支給し、シーツ類は金曜日または土曜日に各家庭で洗濯してもらっている。乳幼児突然死症候群の予防対策として、園のしおりに午睡中の睡眠チェックについて記載している。年長児は就学に向けて1月より午睡をなくし、生活リズムを整えている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当

評価項目3の講評

子どもの年齢・発達に応じた玩具・絵本を用意し、遊びこめる環境を整えている

保育方針である「自立心を養う」「隣にいる子に手を差し伸べることのできる子どもを育てる」に基づき、年間指導計画を立案して月・週ごとの具体的な計画を作成している。乳児クラスは、感触・音を楽しみながら指先を使う手作り玩具を用意している。幼児クラスもコーナー保育を展開し、ブロック・積み木など年齢・発達に合わせた玩具や絵本を配置して遊びこめるようにしている。職員は必要に応じて声をかけ、会話の楽しさを伝えている。子どもたちがルールを決めて主体的に遊んだり、見立て遊び等で想像力を養ったりしている。

幼児クラスは体操教室・ポニー教室の活動を通して豊かな経験を積んでいる

専任講師による体操教室は、3・4・5歳児を対象に週1回30分ずつ実施している。年間計画に基づきマット・跳び箱・鉄棒・縄跳び等に取り組み、運動会では組体操(4・5歳児)、平均台・マット等を披露している。1・2歳児は担任保育士によるリズム体操を楽しんでいる。ポニー教室(4・5歳児)は年10回程度、近隣の公園でポニーの世話体験している。動物との触れ合いを通じて豊かな経験を積んでいる。幼児クラスは当番活動を取り入れ、日にち・天気を皆の前で発表したり、出席人数を給食室に伝えたり、テーブル拭き等の手伝いをしている。

近隣には複数の公園があり、目的や年齢に合わせて戸外活動をしている

園庭はないが、徒歩圏内に都立公園をはじめ複数の公園があり、天気の良い日は散歩や公園に出かけている。お散歩マップを作成し、公園の紹介、公園までの道路の特徴・危険箇所等を掲載して園内に掲示している。目的や年齢に合わせた活動を行い、自然との触れ合いを通して四季の移り変わりを感じることができるよう配慮している。夏には、組み立て式のプールやビニールプール・沐浴等、年齢に応じて水遊びを楽しんでいる。二十四節気を大切に考え、保育に取り入れて伝統文化に触れる機会を持っている。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○ 非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○ 非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○ 非該当
評価項目4の講評			
行事の由来・言葉の意味を知り、興味・関心を持って行事に取り組めるよう配慮している 行事は日々の生活や子どもの成長した姿を発表する場と捉え、日常の保育とのつながりを大切にしている。二十四節気を保育に取り入れるとともに、七夕まつり、七五三、もちつき会、節分会、ひなまつり会など日本の伝統行事を実施している。言葉の意味や行事の由来を子どもたちにわかりやすく伝え、興味・関心を持って取り組めるよう配慮している。行事の際は行事食を提供している。毎月誕生会を実施し、園全体でお祝いするとともに、おやつに手作りケーキを提供している。 子どもが主体となり、行事の準備・運営を行っている 子どもが主体となり行事の準備・運営を行っている。親子ふれあい運動会は小学校の体育館を借りて実施し、5歳児が万国旗を製作している。プラカードを持って先導したり、開会式・閉会式の挨拶、体操のお手本等、子どもたちが役割を担っている。生活発表会では、子どもたちのやりたい気持ちを尊重して劇の題材や配役等を決めている。また、ハンドベル、鍵盤楽器、打楽器等を使用した合奏に取り組んでいる。春・秋には遠足を実施し、秋の遠足では保護者も参加して動植物園や梨狩りに出かけている。5歳児は夏と冬に1泊ずつ宿泊保育を実施している。 行事のねらいや取り組みの様子は、おたより・連絡帳・SNSで保護者に伝えている 年度初めに年間行事予定を配付している。各行事のねらいや取り組みの様子は、毎月発行するおたよりに掲載して伝えている。行事時の様子は連絡帳で伝えたり、SNSで写真を配信したりしている。3・4・5歳児は区の清掃局が実施する環境学習に取り組んでいる。廃材を活用した製作やごみの分別等、日頃からリサイクルを意識する機会を持っている。新年子ども会は5歳児が公共のホールで開催する観劇会に参加し、区内の保育園児と交流する機会となっている。			
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○ 非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○ 非該当
評価項目5の講評			
メリハリのある生活が送れるように、生活エリアを分けて静・動の活動を取り入れている 子どもが落ち着いて過ごせるように環境を整えている。各保育室には冷暖房・空気清浄機・加湿器・オゾン発生器を設置している。0・1・2歳児は遊び・食事・睡眠のエリアを分け、裸足で過ごしている。3・4・5歳児の保育室は可動式の壁を収納して1つの部屋にすることができ、体操教室や全園児が集う誕生会の際に活用している。静と動の活動を取り入れて、メリハリのある生活が送れるようにしている。疲れが見えたり、体調が悪い時には、保健室でゆったり過ごせるよう配慮している。 移行期間を設けて進級時の環境変化にスムーズに対応できるよう配慮している ブロック等作りかけの作品は棚の上に収納し、完成するまでじっくり遊ぶ時間を確保している。保育室は乳児・幼児でフロアが分かれているため、3月には2歳児が3歳児の保育室を訪問して3歳児と交流を持ったり、体操教室に体験参加する等、移行期間を設けて進級時の環境変化にスムーズに対応できるよう配慮している。 保育に必要な情報は遅番連絡表に記入し、担任から遅番職員へ引き継ぎしている 通常は年齢別に保育を行うが、早期・夕方は異年齢児の合同保育を行っている。延長保育は実施しておらず18時30分に閉園する。遅番の職員は、遅番連絡表で担任からの引き継ぎ事項を確認し対応している。けがを含む体調面や友だちとの関わり等で気になる点がある時には、なるべく担任保育士が直接保護者に説明するよう心がけている。			

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○ 非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○ 非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○ 非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○ 非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○ 非該当
評価項目6の講評			
旬の食材をバランスよく摂取できるように献立・味付け・調理方法を工夫している 給食・おやつ提供は外部委託しており、毎月の給食会議で各クラスの意向を委託先の栄養士に伝えている。旬の食材をバランスよく摂取できるように2週間サイクルの献立を立案し、一巡目の喫食状況により二巡目には味付け・調理方法を改善するなど工夫している。給食は手作りで、献立には行事食や郷土料理を取り入れている。おやつもできる限り手作りするよう心がけている。給食室はガラス張りになっており、子どもたちが外から調理の様子を見ることができる。 食物アレルギーは医師の指示書に基づき除去・代替食を提供し誤食のないよう努めている 食物アレルギーは入園時の面談で子どもの状況を把握し、医師の診断書に基づき除去・代替食を提供する。毎月保護者と面談を行い、献立表を用いて対象となる食材を確認している。配膳時は色の異なるトレイに食料をつけて給食室で盛りつけし、除去食材を確認しながら栄養士が担任に手渡している。誤食を防ぐため食事席は固定している。離乳食は咀嚼など個々の発達段階に合わせて進め方を検討し、家庭で試食して安全が確認された食材を使い調理を行っている。アレルギーの原因となりやすい食材は、家庭で2回以上試してもらってから提供している。 野菜の栽培・収穫体験や栄養を学ぶ機会を設け、食への興味・関心を深めている 給食年間計画を作成し、1歳児より食材に触れる機会を設けている。お米研ぎ、野菜栽培・収穫、野菜ちぎり、包丁を使った野菜切り、お月見団子作り等の活動を通して食への興味・関心を深めている。3・4・5歳児は魚さばきを見学して命をいただくことの大切さを学んだり、三色食品群、食事マナー、食具の使い方等も学んでいる。給食時には食材を見せて献立を伝えている。保護者には毎月献立表・給食だよりを配付してレシピを紹介したり、離乳食(初期・後期)・幼児食のサンプルを展示している。食育の様子はSNSで配信している。			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○ 非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○ 非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○ 非該当
評価項目7の講評			
看護師が中心となり、手洗い・うがい・歯磨き等の保健指導をしている 戸外活動の前には散歩コース、公園遊具の安全確認をするとともに、道路の歩き方・渡り方、信号の見方等の交通ルールや遊具の使い方を子どもに伝え、安全に遊べるよう注意を促している。消防署の協力の下、消防車の試乗や起震車体験を行うほか、園では毎月様々な災害を想定した避難訓練を実施している。毎朝看護師は保育室を巡回して子どもの健康状態を確認している。また、年齢に合わせて手洗い・うがい・歯磨き指導をしている。歯磨きは1歳後半から開始し、必要に応じて仕上げ磨きをする。衛生点検は各クラスの職員が行っている。 健康管理を行い、子どもの健康・発育の状況を保護者と共有している 定期的に健康診断・歯科検診・身体測定を実施し、診断・測定結果を連絡帳に記録して、保護者と共有しながら子どもの健康・発育状況を把握している。健康・発育等で気になる点があれば、嘱託医に相談できるよう連携体制を整えている。園のしおりや、けが・体調不良時の園での対応方法を明示している。薬は原則預からないが、治療のために必要な場合は与薬依頼書を提出してもらい、塗り薬等を預かることがある。保健部会では、外傷・打撲・痙攣時・誤飲・口腔内のけが・骨折・肘内障・火傷の対応等について知識の確認を行い、事故防止に取り組んでいる。 午睡時は目視確認に加えてセンサーを併用し、安全に入眠できるよう努めている 午睡時は0歳児は5分、1・2歳児は10分毎に顔色・姿勢を観察・記録している。0歳児は目視確認に加えてセンサーを併用し、乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防に努めている。手洗い時は液体石鹸・ペーパータオルを使用し、空気清浄機・加湿器・オゾン発生装置、嘔吐処理用具を保育室に設置して感染症予防に努めている。感染症が園内で発生した時や地域で流行の兆しがある時には、お知らせを作成して注意喚起している。毎月保健だよりやSNSで、健康についての情報を保護者に提供している。			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
日々の送迎時に保護者とコミュニケーションを図り、随時相談に応じている 当園の開所時間は7時30分から18時30分としており、延長保育は実施していない。土曜保育の希望がある場合には前月末までに申し出てもらっている。年3回保護者会を設定して、クラスごとに懇談をしている。園の取り組みや子どもの様子について伝えるとともに、保護者同士の交流を図っている。日々の送迎時にも保護者とのコミュニケーションを図り、随時相談に応じている。子育ての戸惑いや悩みには、個別に面談を設定し対応できるようにしている。 「保護者の会」が組織されており、行事等への協力が得られている 保護者で構成する「保護者の会」が組織されており、行事等への協力が得られている。保護者が参加できる行事として、遠足、運動会、生活発表会等を設定している。年間の行事予定は4月の保護者会で配布し、詳細を園だより等で再度伝えている。行事に参加するなかで、保護者同士が交流できるようにしている。個人面談や保育参加(幼児)等も実施している。年間を通してのアンケートを保護者に実施し、保護者の意見・要望等を聞いている。 全クラスでSNSを活用しており、毎日の子どもの様子を保護者に伝えている 0・1・2歳児は連絡帳を使用して保護者と連絡を取り合っている。全クラスでSNSを活用して、毎日の子どもの様子を伝えている。また、給食の様子も写真を載せて伝えている。園だより・保健だより・献立表等は毎月発行している。クラスだよりは、3ヶ月に1回発行するとしている。各種だよりは配布するだけでなく、ホームページでも公開している。園の様子や次月の予定等を知らせるほか、子育てに役立つ情報を提供している。			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
ポニー教室やプラネタリウム、環境学習等、地域の資源を活用できる機会を設けている 近くの公園で行われているポニー教室に4・5歳児が参加している。年に10回程度実施しており、ポニーに餌をあげたり、世話をする等して、生命の大切さやいたわりの気持ちを育んでいる。このほかにも5歳児が区内にあるプラネタリウムを利用したり、区の清掃局が実施している環境学習に3・4・5歳児が参加する等して、地域の資源を活用できるようにしている。 地域の人々との交流については、再開できるものから取り組んでいる コロナ禍以前は、近隣にある高齢者施設の利用者と毎月5歳児が交流をしたり、小学校の行事への参加や交流する機会を設けていたが、現在まで中止としており、再開には至っていない。同法人が運営する学童保育の児童を園行事に招待して関わっている。中学生や高校生の職場体験やボランティアの受け入れを実施している。そのほかにも隣にある消防署とは日頃から交流があり、消防車を見学させてもらう等している。起震車の体験等も実施している。地域の人々との交流については、再開できるものから取り組むようにしている。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
タイトル①	共通の保育理念を目指すにあたり、基本方針の理解を進めて定着がなされている	
内容①	園での経験を積んだベテランの職員も多く、法人理念の実践がなされている。職員会議や毎日の朝礼、終礼では、園のビジョンを意識して、保育者としての責任感を強く持ち保育に従事することを説明している。理念や方針等は園内各所に掲示して、いつでも確認できるようにしている。考課表の項目においても、求められる人材像を示して確認できる仕組みとなっている。職員の自己評価においても、園が目指していることや運営の仕組み等について理解できていることが伺われた。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	子どもの安全のために必要な訓練は、職員誰もが行えるように園内研修で取り組んでいる	
内容②	保育運営に必要な知識や技術を習得し、事故発生時は迅速に対応できるように園内研修に取り組んでいる。危機対応の訓練は、園舎の至近にあり日頃から連携を図っている消防署の協力を得て行っている。コロナ禍にあり受け入れがなされない場合には、看護師が区主催の講習等に参加し、その後資料に基づき園内研修として、救急救命、アレルギー対応、誤飲対処法等について取り組んだ。今年度は従前通り消防署において実施された。AEDは消防署から借りることを想定しているため、職員誰もが行うことができるように3回に分けて実施がなされた。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-4	日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル③	二十四節気を大切にして季節の行事を実施し子どもが主体的に準備・運営に関わっている	
内容③	行事は日常の保育の延長線上にあると捉え、無理なく取り組めるよう配慮している。二十四節気を大切にして季節の伝統行事を実施し、行事食を提供している。言葉の意味や行事の由来を子どもたちにわかりやすく伝え、製作等を行い興味・関心を深めている。行事の準備・運営は子どもが主体となっており、親子ふれあい運動会では万国旗の製作や当日の先導、開会式・閉会式の挨拶、体操のお手本等の役割を担っている。生活発表会においても、劇の題材・配役は子どもたちのやりたい気持ちを尊重して決めている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保育方針を念頭に置き、異年齢で活動する機会を多く持ち、いたわりや優しい心を育てている
	内容	保育方針である「自立心を養う」、「隣にいる子に手を差し伸べることのできる子どもを育てる」を念頭に置き、保育を行っている。異年齢で活動する機会を多く持ち、いたわりや優しい心を育てている。乳児クラスは、感触・音を楽しみながら指先を使う手作り玩具を用意している。幼児クラスも年齢に合わせた玩具・絵本を用意してコーナー保育を展開し、集中して遊びこめるようにしている。子どもたちがルールを決めて主体的に遊んだり、見立て遊び等で想像力を養ったりしている。職員は必要に応じて声をかけ、会話の楽しさを伝えている。
2	タイトル	1歳児より食育活動に取り組み、食材に触れたり、調理したり、栄養等を学んだりする機会を通して食への興味・関心を深めている
	内容	旬の食材をバランスよく摂取できるように献立を立案し、必要に応じて味付け・調理方法を改善するなど工夫している。給食は手作りで提供し、行事食や郷土料理も取り入れている。食育活動に取り組み、1歳児より食材に触れる機会を設けている。お米研ぎ、野菜栽培・収穫、野菜ちぎり、包丁を使った野菜切り、お月見団子づくり等を通して食への興味・関心を深めている。給食時には食材を見せて献立を伝えている。魚さばきを見学して命をいただくことの大切さを学んだり、三色食品群、食事マナー、食具の使い方等も学んでいる。
3	タイトル	子どもが落ち着いて過ごせるように保育環境を整え、3月には移行期間を設けて進級時の環境変化にスムーズに対応できるよう配慮している
	内容	子どもが落ち着いて過ごせるように、各保育室には冷暖房・空気清浄機・加湿器・オゾン発生器を設置し、保育環境を整えている。年齢に合わせて生活エリアを分けたり、可動式の壁を収納して広いスペースで活動したりしている。ブロック等作りかけの作品は棚の上に収納し、継続して遊べる時間を確保している。保育室は乳児・幼児でフロアが分かれているため、3月には移行期間を設けている。2歳児が3歳児の保育室を訪問して交流を持ったり、体操教室に体験参加する等、進級時の環境変化にスムーズに対応できるよう配慮している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	長期的視点に立った育成計画を踏まえ、今後も継続して人材育成に取り組んでいく
	内容	キャリアパスは周知されているが、運用している人事考課と育成制度の連動には至っていない。保育人材の採用難の中、新規採用が見込まれた。見通しを持つことで自身のライフステージに合わせた多様な働き方を可能とし、定着率と満足度の向上に期待が持たれる。引き続きリーダー層の役割を明確に伝え、職員それぞれのキャリアアップを図っていく。
2	タイトル	これまで実施してきたリスクマネジメントをさらに一歩進めて、事業継続計画を見直して実行性を高めていく
	内容	リスクマネジメントの一環で、大規模災害に対応したBCP(事業継続計画)の作成がなされている。今年度中に、危機管理の担当者がBCP作成に関する研修に参加して、内容の精査を行う計画となっている。個々の職員のとるべき行動を明らかにして園の機能低下をできるだけ防ぎ、通常状態になるべく早く戻すことができるよう、感染症等に対応できる事業継続計画についても作成していく。
3	タイトル	地域との交流について今後充実を図っていく
	内容	現在、同法人が運営する学童保育の児童を園行事に招待して関わったり、中学生や高校生の職場体験やボランティアの受け入れ、隣にある消防署との連携等により、地域との交流を図っている。以前は高齢者施設や小学校と交流する機会も設けていたが、コロナ禍以降は中止としている。今後は先方と相談したり、職員間で検討を重ね、充実したものとなるように取り組んでいく。